

大震災 4年

天国の親と歩む

震災孤児 悲しみ乗り越え夢へ

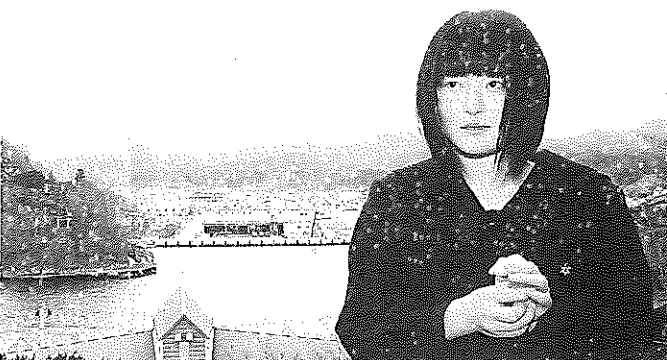
「看護師に」 災害犠牲ゼロ訴え

未曾有の大災害となった東日本大震災から四年。岩手、宮城、福島県の千七百
人余りの子どもたちが、両親を亡くした「孤児」、父親または母親を亡くした
「遺児」になったとされる。しかし、「自分だけが取り残された」という悲し
み乗り越え、夢に向かって歩み始めている。

(戸川祐馬、●面参照)

両親と姉、祖父の家族四
人が津波の犠牲になった宮
城県気仙沼市の気仙沼高校
一年横田万弥さん(こは、
二歳上の兄、敬さんと親戚
に引き取られた。だが、そ
の年のクリスマス、友人宅
から帰ると敬さんがいなく
生がいつも聞いてくれた。

両親と姉、祖父の家族四
人が津波の犠牲になった宮
城県気仙沼市の気仙沼高校
一年横田万弥さん(こは、
二歳上の兄、敬さんと親戚
に引き取られた。だが、そ
の年のクリスマス、友人宅
から帰ると敬さんがいなく
生がいつも聞いてくれた。



①「地域を支える看護師になりたい」と意気込む横田万弥さん(宮城県気仙沼市)
②「街を復興する先頭に立ちたい」と語る菊地将太さん(岩手県陸前高田市)

「私も故郷の人の役に立つ看護師になりたい。今は、大学進学のために理系科目の勉強に励む毎日だ。」「天国にいる家族に、前を向いている姿、見てもらえるかな」

◆
筑波大で法律や政治を学ぶ岩手県陸前高田市出身の菊地将太さん(こ)茨城県つくば市は高校二年の時、津波で両親を亡くした。その後、被災した若者を支援する一般財団法人

「私も故郷の人の役に立つ看護師になりたい。今は、大学進学のために理系科目の勉強に励む毎日だ。」「天国にいる家族に、前を向いている姿、見てもらえるかな」

◆
筑波大で法律や政治を学ぶ岩手県陸前高田市出身の菊地将太さん(こ)茨城県つくば市は高校二年の時、津波で両親を亡くした。その後、被災した若者を支援する一般財団法人

「教育支援グローバル基金・ヒョンドトウモロー」(東京)の奨学生となり、進学した。

東北を離れると「別世界」だった。震災孤児として特別視してほしかったわけではないが、友人に震災のことを話しても理解してもらえなかった。そんな中、奨学金の支援団体が行っているリーダー養成プログラムに参加、同じような境遇の仲間と経験を共有し、親がいない寂しさを乗り越えてきた。

震災の体験を話す機会も増えた。自分では備えることの大切さを訴えているつもりだが、話し終わると「負けないで」「頑張ってください」と励まされる。

仙台市で十五日にある国連防災世界会議でもスピーチする。訴えたいのは自然災害の犠牲者ゼロ。「犠牲者がいる限り、防災ができていないとはいえない。自分のような経験をする人がなくなるよう努力を続けなければ」。卒業後は地元に戻ることを決めた。記者として、故郷のために伝える仕事かしたいと思っ